

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59—11910

⑮ Int. Cl.³
F 16 B 19/00

識別記号

庁内整理番号
7812—3 J

⑯ 公開 昭和59年(1984)1月25日

審査請求 有

(全 4 頁)

⑰ 固定具

⑱ 実 願 昭57—106564

⑲ 出 願 昭57(1982)7月14日

⑳ 考 案 者 林義時

名古屋市中区千代田二丁目24番

15号北川工業株式会社内

㉑ 出 願 人 北川工業株式会社

名古屋市中区千代田二丁目24番
15号

㉒ 代 理 人 弁理士 足立勉

㉓ 実用新案登録請求の範囲

- 1 基板等の対向する板材を一定間隔を隔てて保持する固定具であつて、支柱の固定脚部の支持台部の該固定脚部の反対側端部に基板等を把持し得る取り付け機構を備えた固定具において、前記支持台部の反対側端部に左右に設けられ、該支持台部から遠ざかるはつれて相互間の距離が大きくなるように、かつ左右方向に弾性変形可能に連設された弾性拘止片と、該拘止片の中央部に支柱の軸方向に延び出した連結部と、該連結部先端に弾性変形可能に連設された弾性逆止部とよりなる固定脚部を備え、前記基板等と対向する他の基板等に設けられた固定孔を貫通した該弾性拘止片が基板等の内表面より、前記弾性逆止片が外表面より前記基板等を挾持し得るようにしたことを特徴とする固定具。
- 2 支柱の支持台部の一端部側に設けられる基板等を把持し得る取り付け機構が該支持台部の軸方向に延び出した連結部と、該連結部先端左右に弾性変形可能に連設された弾性逆止片と、該支持台部の外周方向に突設された拘止部とを備えたものであり、基板等に設けられた固定孔を貫通した前記弾性逆止片の先端部が基板等の外表面より、上記拘止部が内表面より基板等を挾持し得るようにした実用新案登録請求の範囲第

1項記載の固定具。

- 3 弾性拘止片側の基板等の固定孔が角孔であり、両弾性拘止片の先端部に該角孔にはまり得る段付部を有し、かつ前記弾性逆止片及び拘止部該角孔を貫通可能であり、更に弾性逆止片側の基板等の固定孔が丸孔である実用新案登録請求の範囲第1項又は第2項記載の固定具。
- 4 弾性逆止部が球面円形皿状をなし、該皿状部の直径が、前記両弾性拘止片の段付け部間寸法より大きいものである実用新案登録請求の範囲第1項、ないし第3項のいずれかに記載の固定具。

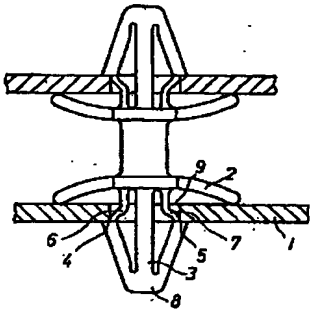
図面の簡単な説明

第1図は従来例の正面図である。第2図は本考案の一実施例の正面図、第3図は同例の側面図であり、第4図は同例の平面図、第5図は第2図におけるⅢ—Ⅲ断面図、第6図は同例の底面図、第7図は第3図のV—V断面図、第8図は第2図のX—X断面図、第9図は同例の使用状態を示す一部破断断面図、第10図は本考案の別の実施例を示す底面図である。

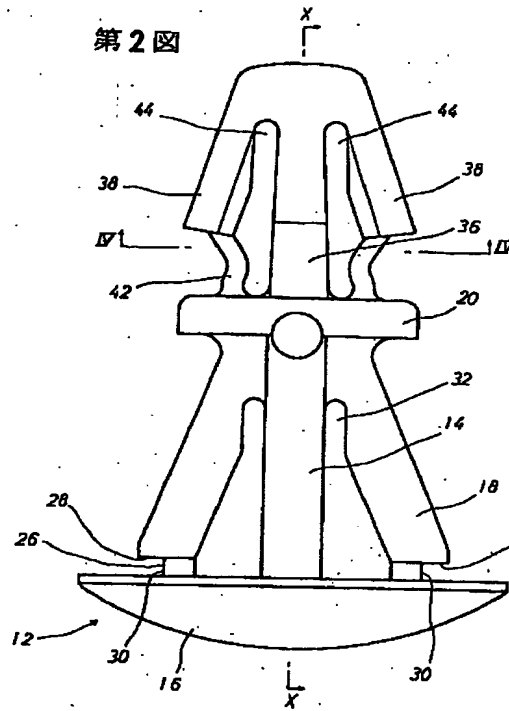
12…固定脚部、14、36…連結板、16、46…弾性逆止部、18…弾性拘止片、20…支持台部、22、34…基板、38…弾性逆止片。

BEST AVAILABLE COPY

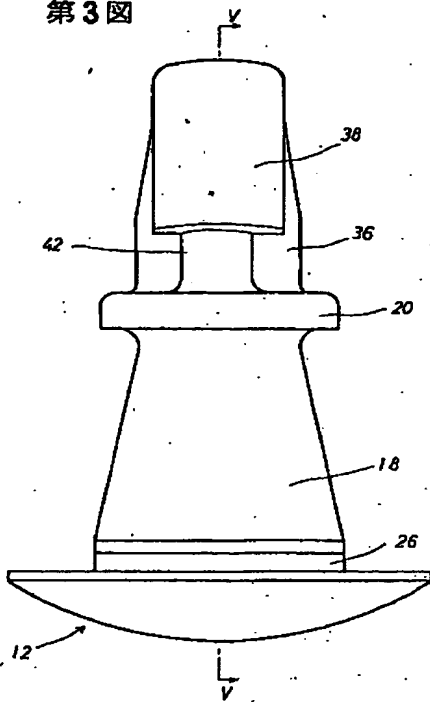
第1図



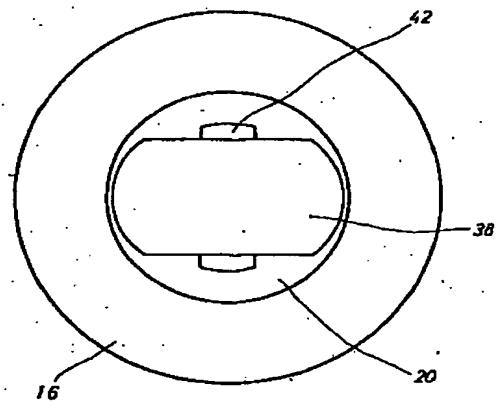
第2図



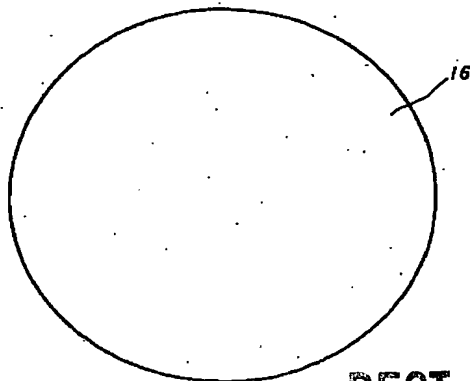
第3図



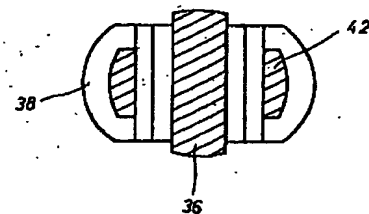
第4図



第6図

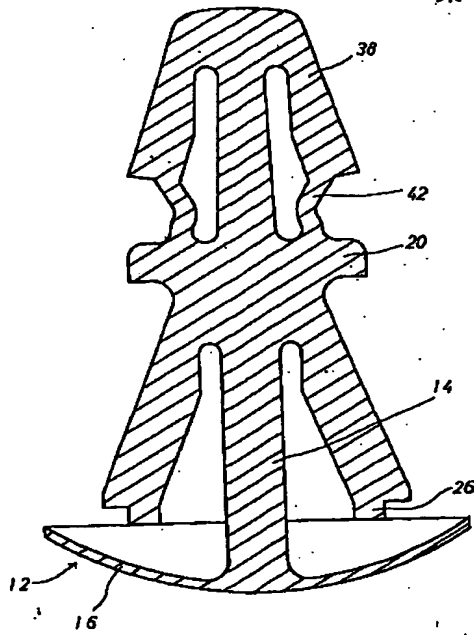


第5図

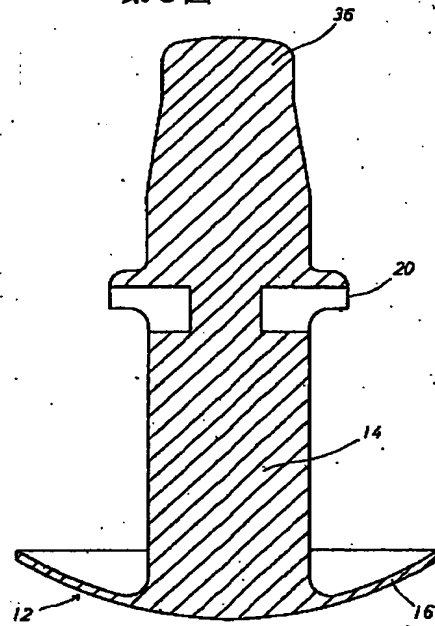


BEST AVAILABLE COPY

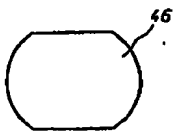
第7図



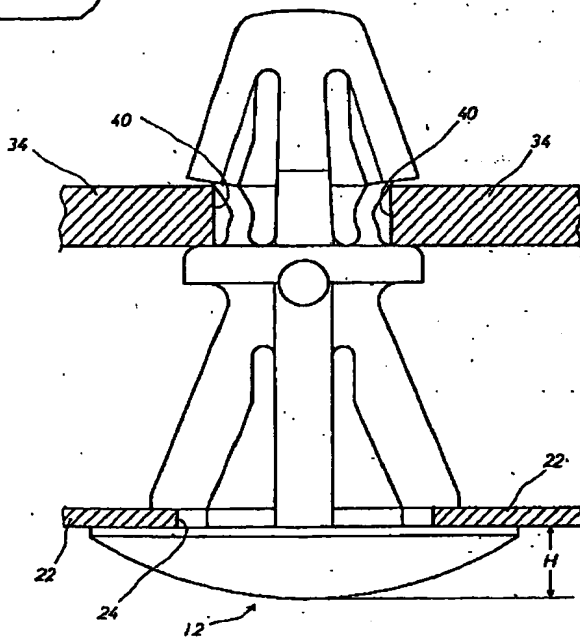
第8図



第10図



第9図



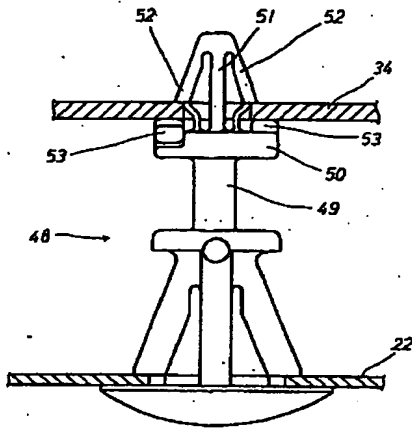
BEST AVAILABLE COPY

補正 昭58. 9. 27

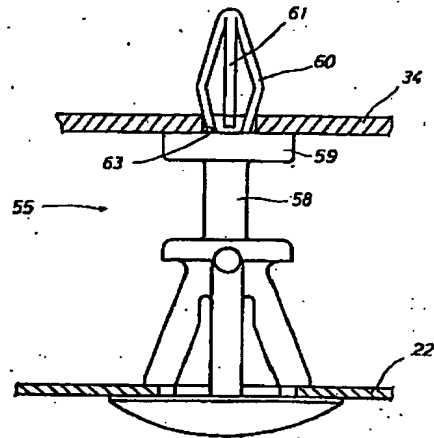
図面の簡単な説明を次のように補正する。
明細書第12頁下から2行目の「…底面図である。」の後に次の文を挿入する。

図面を次のように補正する。

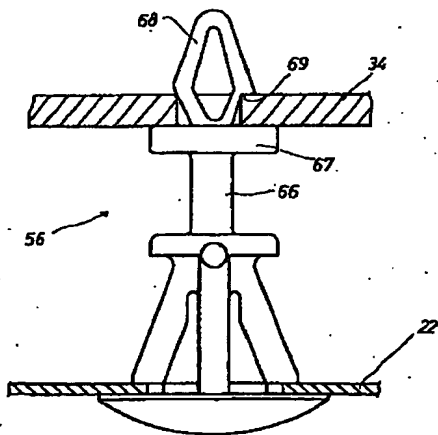
第11図



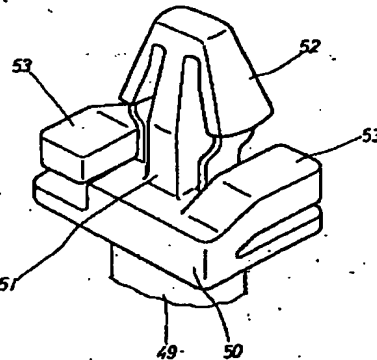
第12図



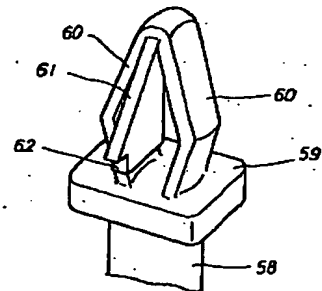
第13図



第14図



第15図



BEST AVAILABLE COPY